

推量アプローチを求める問題が リスニングテストに占める割合

伊 東 武 彦

A Study on Listeners' Ability of Inferencing Speakers'

Intentions

Takehiko ITO

One crucial listening skill in conversation is identifying the speaker's intentions. The speaker's intentions are seldom overt, rather, they must usually be inferred from set conventions and knowledge of the speaker's conversational style and strategies. Two approaches are electively used in listening comprehension: information-processing and inferencing-based approaches. The ratios of inferencing-based questions in TOEFL and STEP listening comprehension tests were surveyed. The results indicated a significant difference between the ratios. This suggests that TOEFL is superior to STEP as a means of evaluating listening skills in conversation.

1. はじめに

聞き手が音声を正確に識別でき、発話中の語彙と統語関係を正確に把握できたとしても、話し手の意向を充分理解できない場合がある。

話し手Aが次のように言ったとしよう。"Have you found your job yet?" この発話は、仕事を見つけたかどうかの事実関係を単に尋ねているばかりでなく「早く仕事を見つけれ」という〈催促〉、あるいは「どうして働かないんだ」という〈非難〉の意向の下に発せられている可能性がある。それに対して聞き手Bが、単に"Yes." もしくは、"No." と返答したのではAの意向を理解していることにはならない。仮にAの意向が〈非難〉である場合、"I'm sorry. I'm going try harder next week." と〈詫び〉たり、

"I'm looking papers, but no hope right now." と〈釈明〉することが適切な返答となる。

リスニングとは単に言葉そのものを理解する行為ではなく、話し手の意向の理解までも時には必要とする行為である。聞き手はコミュニケーションを成立させるために、話し手の意向を理解しなければならない。しかしその意向は言葉として直接表現されない。聞き手が話し手の意向の理解を可能にする、

その能力を仮に「推量」と名づけよう。Bolinger(1981)は、話し手の意向と発話中の言及は常に一致するとは限らず、聞き手は推量により言及と意向の間の差(inferential gaps)を埋めなければならないとしている。

外国語によるリスニングでは、話し手の意向の推量は母国語の場合に比べて一層困難になる。音声の識別と言語の認識が母国語の場合ほどスムーズにいかないため、聞き手は、話し手の意向を推量する作業に集中できないからだ。しかし、推量に失敗することは単に情報伝達に支障をもたらすばかりでなく、時にはコミュニケーションの当事者間の相互関係に緊張を生じ、その結果互いに誤解を抱えたまま交渉が破綻する要因ともなる。

英語教師がこの問題を打開するために成し得る方策は、実際のコミュニケーションの場面を想定して学習する必要性が高まる中・上級のリスニング指導に話し手の意向を理解させるリスニング活動を取り入れ、積極的な聞き手(active listener)の養成に努めること、そしてリスニングテストによって、その技能の発達を確認することである。しかるに、現状では、話し手の意向を推量する活動が充分に行われ

ていない。また、各種の英語テストのリスニング問題にこの視点が存在するかどうかは不明である。

以上の考えに立ち、本研究では以下の2点を論じる。1)話し手の意向を推量する能力の詳細。2)話し手の意向推量の視点からのリスニングテスト問題の妥当性の検討。

2. 聞き手の理解とその能力

2.1 聞き手の役割

かつて、言語コミュニケーション行為は図1に表されるような話し手からの一方的な情報送信過程モデルとして考えられ、聞き手の役割はメッセージをただ受け取る受動的な立場として考えられていた。また、このモデルでは、聞き手は音声信号を解読することができれば話し手が意図した通りのメッセージを受け取ることができるとされた。

つまり、このモデルは、言語の本質は外延的(denotative)機能であるとの想定の上に成り立っていた。それは、コミュニケーションの内容は情報であり、その情報は話し手の言語に明示され、それを把握することによって情報は伝達されるという考えである。その結果、言語の内包的(connotative)機能を見逃し、ひいては聞き手が担う役割を受動的なものに限定してしまったのである。しかし、会話例(I)はこのモデルに疑問を投げかける。

会話例(I)

- (1) A : Susan, you aren't going past the dry cleaners at lunch-time, are you by any chance?
(2) B : Yes, I am, as it happens.
(3) A : Well, I have a suit in there being cleaned, but I'm having lunch with John and won't have time to get down there myself.
(4) B : Fine, no problem, I'll pick it up for you.
(5) A : Are you sure?

(6) B : Yes, really.

(7) A : Thanks very much.

(8) B : Not at all. (鶴田, et al., 1988:100)

日常的に起こり得る会話である。(3)のAの発話は、butを境に2つの部分から構成されている。その前半によりBはAが(1)で dry cleaners に言及した訳を知る。後半は、構造上は平叙文であり、表面上はBに働きかける要素は持っていない。にもかかわらずBはこの文を自分に対する依頼と受け取り、(4)で了承の意思を表明するのである。この会話においては、Bが単に言語の解読に成功するだけではAのメッセージは伝わらない。

会話例(I)から明らかな通り、聞き手は単にメッセージを受け取るという受動的な役割に甘んずるのではなく、推量という積極的な行為により状況や文脈から意味を創造する能動的な役割を担っていると考えられる。

2.2 会話理解の2つのアプローチ

会話を理解するための二種類のアプローチがある。Rost (1990) はこの二つを、情報処理アプローチ(information-processing approach)、推量アプローチ(inferencing-based approach)と呼んだ。前者は、発話の中に明示される情報を把握することにより会話を理解する方法である。一方、後者は明示された情報を元に話し手の意向を推量することにより会話を理解する方法である。聞き手は、会話の性質によって両者のいずれかのアプローチを用いると考えられる。情報処理アプローチでは、言語能力の高低が理解の成否の決め手となる。会話例(II)を見てみよう。

会話例(II)

A : Excuse me, can you tell me how to get to the city hall?

B : Sure. Do you know where the new post office is?

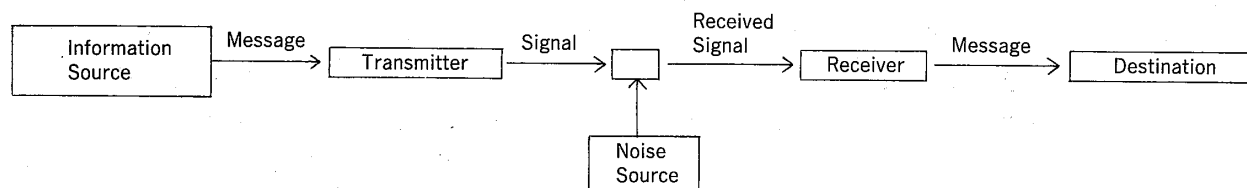


図1：情報処理モデル (Shannon and Weaver,1949)

A : No, I'm afraid not.

B : Um, let me see. Just follow this street for three blocks until you see a big statue. Turn right there and the city hall will be on the left side next to the post office.

A : I understand. Thanks a lot.

これは情報処理アプローチで理解できる会話例である。AはBの発話の中の語彙、文法の識別力があればAのメッセージを理解することができる。

一方、推量アプローチを用いる会話例(1)では話し手の言葉は2つの層を提供すると考えられる。ひとつの層は言葉の中に明示されている情報であり、もうひとつの層は明示された情報が示唆する話し手の意向である。話し手は特定の意向の下に聞き手に対して発話を提供し、聞き手は推量により「発話と意向の間の関連」(underlying links)を見つけ出すのである。この場合、会話を理解するという行為は、音声シグナルを解読する過程と言葉の理解に基づいて話し手の意向を推量する過程の双方を含むと考えられるのである。

2. 3 推量アプローチの重要性

Wolfson(1989)は外国語の会話における誤りを、言語能力の不備から生じるものと、社会言語学的規則から逸脱するものの二つに分け、前者は会話の相手であるnative speakerにそれと明確に認識できるため大きな摩擦や人間関係の破綻には至りにくい、後者は相手に誤りと明確に認識されないためにnative speakerから人間性に対する誤解を持たれる事態が生じる、と述べている。ここでの社会言語学的知識からの逸脱とは、不適切な質問を投げかけたり、〈お詫び〉、〈賞賛〉、〈祝意〉などを適切に表明できない失敗を指しているが、これらは話し手の意向を推量するアプローチを適切に用いられないことがしばしば原因となる。さらに、Thomas (1983)は外国語の言語能力が高いほど会話上の失敗は非礼さ、非友好性のためと受け取られる傾向がある、と述べている。つまり、推量アプローチの適切な使用は特にnative speakerとのコミュニケーションを円滑に進める上で重要であると言える。

一方、外国語学習者自身はこの点をどのように考えているだろう。McCarthy (1991)は、外国語学習コースの学生の多くが、会話で苦労するのは自分の

専門分野について話す場合ではなく推量を多く用いなければならない社会的な会話である、と訴えると指摘している。推量アプローチを適切に使用することは決して容易なことではない。

3. 推量の能力

3. 1 推量能力の分類

話し手の意向を推量する作業は、聞き手による言語的、非言語的情報の分析と総合という極めて複雑な能力に依っている。推量の能力は、聞き手が話し手の言語行動を推量するためにどのような手がかりを使うかによって数種類に分類される。

Rost(1990:152)は話し手の意向を解釈するために必要な能力を4つに分類した。

- (a) Identifying an interpersonal frame that suggests speaker intention toward hearer.
- (b) Recognizing changes in 'prosodic gestures' - pitch height, pitch range, pitch patterns, pause, tempo - and identifying inconsistencies in speaker use of these gestures.
- (c) Identifying speaker contradictions, inadequate information, ambiguity in speaker utterance.
- (d) Differentiating between fact and opinion: identifying uses of metaphor, irony, and other 'violations' of conversational maxims.

(a)は、会話の参加者が持つ非言語的手がかりを用いて推量する能力であり、(b)は、副次的言語(paralanguage)を手がかりに推量する能力である。一方、(c)、(d)は話し手の発話中の言語的な手がかりを用いて推量する能力である。実際に、聞き手が話し手の意向を推量する際には、話し手の発話の種類に応じて、4つの能力を選択的に用いていると考えられる。

次に、話し手の意向に目を向けたい。話し手の言語行動を引き起こす意向は多様である。話し手の意向を分析するために、発話行為(speech act)理論を用いる。発話行為とは、コミュニケーションの機能的単位としての発話を意味する。発話行為理論では、発話には二種類の意味があると考えられる。(a)命題的意味(locutionary meaning)。これは、発話が持つ語や構造によって伝えられる文字どおりの意味のことである。(b)発語内的意味(illocutionary

表1：Searleによる発話行為の分類

Type of act	Illocutionary point	Examples
I Representative	Commit speaker to truth of expressed proposition	state, describe, hypothesize, boast, complain
II Directive	Attempt to get hearer to do something	request, order, beg
III Commissive	Commit speaker to a future course of action	promise, threaten
IV Expressive	Express psychological condition about a state of affairs	congratulate, apologize, thank
V Declarative	Bring about correspondence	resign, fire, appoint

force)。これは、発話が聞き手に及ぼす影響である。たとえば、It's hot. という発話において、命題的意味はその発話が話し手の環境について述べていることである。発話内の力は、その発話が聞き手に及ぼしてほしいと話し手が思う効果である。この発話は、何か冷たい飲み物がほしいという要請として意図されているかもしれない。発話行為は、命題的意味と発話内の力の両方を持つ発話である。発話行為には、要請、指図、命令、不平、約束などの多くの種類がある。

Searle (1965)は、発話行為のタイプを5種類に分類した(表1)。

それぞれの発話行為は、聞き手にそれぞれ次の効果を与えることを期待している。Iは、話し手の言及が真実であると信じること。IIは、話し手の願望を理解すること。IIIは、話し手の未来の行為を理解すること。IVは、話し手の感情や態度を理解すること。Vは、状況の新しい変化を理解すること。

Rostの推量の能力分類と Searle の発話行為の分類を総合することにより、推量型アプローチを必要とするリスニング活動を分類するためのマトリクスが作成される(表2)。なお、作成にあたり発話行為を話し手の意向としてとらえた。このマトリクスが

表2：推量型リスニング活動分類マトリクス

意向 能力	I	II	III	IV	V
a					
b					
c					
d					

持つ20のカテゴリーのいずれかに分類されたものを推量型リスニング活動と定義する。

3. 3 分類例

推量型リスニング活動マトリクスを使い、推量アプローチを求めるリスニングの分類を試みた。言語データは、映画 Forrest Gump (1994年 Paramount Pictures)より採取した。この映画では、知的能力が平均よりやや劣ると設定される主人公 Forrestが話し手の意向を理解できないために、意思の疎通をスムーズに行えない場面がユーモラスに描かれている。それらの中から推量に失敗する典型的なシーンを5つ抽出し、それらがマトリクス上のどこに分類されるかを考察する。

- 1) Jenny :Do you ever dream, Forrest... about who you are going to be?
 Forrest: Who I'm going to be?
 Jenny :Yeah,
 Forrest: Aren't I going to be me?
 Jenny :You'll always be you, just another kind of you. You know? I want to be famous. I want to be a singer like Joan Baez. I just want to be... on an empty stage with my guitar, my voice.

Jennyの "... who you're going to be?" という尋ね方は、将来の夢を尋ねる質問としては曖昧性が高く、ForrestはJennyの突然の質問の真意がつかめないでいる。

Jennyの発話の意向は、その後彼女の夢が一方的に

延々と述べられていることから、単に、将来のForrestの夢を尋ねることではなく、溢れんばかりの自己の夢を彼に聞いてもらうための状況作りと考えられる。

[c、III] に分類される。

- 2) Jenny :Have you ever been with a girl, Forrest?

Forrest: I sit next to them in my home economics class all the time.

深夜、Gennyの学生寮の部屋におけるJennyとForrestの会話である。室内の灯りは暗く二人は寄り添って座っている。Forrestは、このような親密性の高い状況でのGennyの質問に含まれた意向を理解せず、的外れな返答をしている。ところがGennyはこれまでの幼なじみとしての関係から一步踏み出す行為を期待しているのである。彼女は二人の状況からForrestがそこに気づくであろうと考え示唆的な質問を投げかけたが、彼に対して無効だったことを知ると、彼の手を自らの胸に導くという直接行動を取った。[a、III] に分類される。

- 3) President Kennedy: Congratulations. How do you feel?

Forrest : I got to pee.

全米学生選抜フットボールチームの一員に選ばれた Forrest はホワイトハウスにケネディー大統領を表敬訪問する。大統領の発話は、構造上は単なる疑問文であるが、彼の立場、及び状況を見ると Forrestの前の3人の選手が口を揃えて述べたような返答("It's an honor, sir." "Very Good, sir.")を期待しているのは明らかである。つまり、大統領の発話行為は聞き手である Forrest に特定の返答を返すことを期待して発せられたものである。ところがForrestは生理的欲求に気を取られ、場違いな返答をしている。[a、II] に分類される。

- 4) Dan :They gave you... the Congressional Medal of Honor.

Forrest: Yes, sir. They surely did.

Dan :They gave you, an imbecile, a moron who goes on television and makes a fool out of himself in front of the whole damn country, the Congressional Medal of Honor.

Forrest: Yes, sir.

ベトナムの戦場で、両足を失ったForrestの元上官

Dan中尉は、米国議会栄誉賞を受賞したForrestをテレビ局の裏口で待ち受け、車椅子の中でこう呟くのである。それに対して、ForrestはYes, sir.と実直に答えるのであるが、Dan中尉の皮肉を含んだ発言はとんとん拍子に物事が運ぶForrestに対する不満の表明を意図したものである。[d、IV] に分類される。

- (5) Man :Ha ha ha! We are sitting next to a millionaire. Well, I thought it was a very lovely story, and you tell it so well with such enthusiasm.

Forrest: Would you like to see what Lieutenant Dan looks like?

ここまでのForrestの話をバス停のベンチで聞いていた男は、彼の話をはら話として信じようとしないう態度を大げさな表情と言葉の抑揚でありありと示すが、Forrestはそれを意に介さず自分の話をさらに継続しようとしている。[b、IV] に分類される。

以上、5つのシーンを取り上げて、それぞれの会話がマトリクス中のいずれのカテゴリに分類されるかを考察した。聞き手Forrestが話し手に対して不適切な返答を返すのは、彼が発話に込められた意向を理解できないためであるが、分類マトリクスは、Forrestが適切に使用することができなかった推量能力の種類と、話し手が込めた意向のタイプを分析し、推量アプローチを必要とする会話の詳細を明らかにすることを可能にする。

5. 実験

5. 1 実験の目的

現在、日本国内において、英語学習者の学力を測定するテストが数種類存在する。これらの中、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) と、実用英語検定は代表的なものである。前者は、日本国内の英語学習者を対象に作成され級別に英語学力を判定し、合格した級は進学や就職の際に資格として考慮されるものであり、後者は、米国などへの留学希望者の英語学力を測定するために米国で作成され世界的に実施される試験である。

両者は、試験の意義、受験者の目的において異なるものの、我が国において相当数の受験者を有し、中級者から上級者にかけての英語学習の方向を左右する点では一致している。英語学習のあり方に強い影響力を及ぼす両テストのリスニング部門を本研究

の視点から比較検討し、話し手の意向を推量する問題が占める割合の相違を調査する意義は深い。これにより、リスニングテストの妥当性に言及する視点の一つを提供することができると考える。

5. 2 調査のデザイン

5. 2. 1 分析対象

(1) TOEFL Test Exercise Book (ETS, 1995)、
(2) 英語検定 1 級 (1995, 第 1、2 回)、(3) 英語検定
準 1 級 (1995, 第 1、2 回)、(4) 英語検定 2 級 (1995,
第 1、2 回)、以上の 4 種類のテストのリスニングセ
クション中の会話形式の聞き取り問題を分析の対象
とした。なお、TOEFL Test Exercise Book を用い
たのは、TOEFL Test が非公開であるために実際の
問題を分析対象にすることができなかったからであ
るが、TOEFL Test Exercise Book は、TOEFL Test
作成する ETS (Educational Testing Service) によ
って編集され、TOEFL Test に完全準拠するとされ
ていることから、実際のテストの特徴を反映してい

ると判断したためである。また、英語検定の 3 つの
級を対象としたのは、これらが中～上級の学習者を
対象にしているためである。

5. 2. 2 分析方法

分析は 2 段階で行われた。

第 1 段階 会話形式のリスニング問題のスク립ト
を対象に、各問題は情報処理型、推量型
のいずれのアプローチを必要とするかを
調査し、各テストに推量型問題が占める
割合を算出する。なお、各割合の比較に
あたっては、% の差の検定を用いる。

第 2 段階 推量型アプローチを必要とする問題につ
いては、意向と推量の能力のいずれの種
類に当てはまるかを分析し、表 1 のマト
リクスに分類する。その後、マトリクス
上の分布状況を考察する。

これらの分析は、筆者に加え、本研究の主旨を理
解した 2 名の英語教師が担当した。なお、分析対象

表 3：各テストに推量型アプローチを必要とする問題が占める割合

	会話形式の問題数	推量型アプローチを 必要とする問題数	推量型アプローチ の問題が占める割合
TOEFL	30	9	30%
英検 1 級	20	1	5%
英検準 1 級	20	2	10%
英検 2 級	20	1	5%
計	90	13	14.4%

表 4：% の差の検定結果

	TOEFL	英検 1 級	英検準 1 級	英検 2 級
TOEFL				
英検 1 級	2.165 *			
英検準 1 級	1.672 n.s.	0.60 n.s.		
英検 2 級	2.165 *	0 n.s.	0.60 n.s.	

表 5：マトリクス上での分布状況

意向 能力	I	II	III	IV	V
a		T, 2	T, T, T		
b					
c	T	T, P1	T, P1	T	T
d				1	

の一部で3名の判定が分かれたが、討議により一致したものだけを分析結果とした。

5. 2. 3 仮説

4種類のリスニングテストにアプローチを必要とする会話問題が含まれる割合に差はないであろう。

5. 3 結果

5. 3. 1 4種類のテストに推量型アプローチを必要とする問題が占める割合

第1段階の分析結果は表2に示す通りである。

表3に示す通り、推量型アプローチを必要とする問題は、TOEFLにおいて最も高い割合を占め、英語検定の3つの級では共通して低い割合に留った。%の差の検定の結果、表4に示す通りTOEFLと英語検定1級、2級の間にはそれぞれ5%レベルで有意差が認められた ($t(48)=2.165$, $P<.05$)。一方で、TOEFLと英語検定準1級、及び英語検定の3つの級の間には有意差は認められなかった。従って、帰無仮説を完全に棄却することはできなかった。

5. 3. 2. 推量型リスニング活動分類マトリクス上での分布状況

4種類のリスニングテスト中の推量型アプローチを必要とする問題として判定された13問を推量型リスニング活動分類マトリクスに分類する。4種類のテストは便宜上次の様に表記する。TOEFL→T、英語検定1級→1、英語検定準1級→P1、英語検定2級→2。

表5に示す通り、4種類のテストで推量型と判定された13問の内、推量の能力bに分類された問題と、意向タイプIに分類された問題はなかった。またTOEFLの9問中3問は[a、III]に集中した。

5. 4 考察

1) リスニングテスト中に推量型問題が占める割合は、TOEFLと英語検定の2つの級で差があることが明らかになったが、これは両テストの目的の違いが反映された結果であると考えられる。つまり、TOEFLは実際に英語の native speaker と対面する場面で相手の意向を理解する力をリスニング能力の一部として測定しようとするのに対し、英語検定では、英語学力=語彙力×文法力という視点に基づくリスニング能力を測定しようとしている。しかし、話し手の

意向を推量する能力の重要性を考える時、実際のコミュニケーションに対応するためのリスニング能力の測定という意識の希薄な英語検定の、コミュニケーション能力測定手段としての妥当性に懸念を感じざるを得ない。

2) 英語検定の分析対象の内、推量型問題と判定されたのは3つの級で計4問と少ないことから、分布状況に一定の傾向を見ることは不可能である。TOEFLの9問は推量の能力分類ではaとcにそれぞれ、4問、5問と分かれ、発話行為分類ではIIIに4問が集中した。これは、出題者が、実際のコミュニケーションにおいて話し手はIIIの発話行為を含め、一方、聞き手はaとcの推量能力を用いる可能性が高いと想定している可能性を示唆するものである。

6. まとめ

話し手の意向を推量する能力は、コミュニケーションを円滑に行うためには不可欠である。今回の調査で明らかになったTOEFLと英語検定の推量型会話問題の占める割合における有意差の存在は、我が国の、実際のコミュニケーション場面を想定しないリスニング学習の在り方を露呈させた。我が国では、話し手の意向を推量する能力に対して、語彙や文法の知識に対してほど関心は払われず、推量の能力を育成するリスニング指導は体系的に行われてこなかった。国際社会に通用するコミュニケーション能力を育成するためには、リスニング学習における推量アプローチによる活動の比重を高めていくべきであろう。

参考文献

- Bolinger, D and Sears, D. 1981. *Aspects of Language*. Harcourt Brace Jovanovich.
- Brown, G. 1986. "Investigating Linguistic Comprehension in Context." *Applied Linguistics*, 3, 284-302.
- Kasper, G. 1991. "Research Methods in Interlanguage Pragmatics." *Studies in Second Language Acquisition*. 13, 2, 215-248.
- Levine, D. Baxter, J. and McNulty, P. 1987. *The*

Culture Puzzle. Prentice Hall Regents.

McCarthy, M. 1991. *Discourse Analysis for Language Teachers*. Cambridge University Press.

McCarthy, M and Carter, R. 1994. *Language as Discourse; Perspective as Discourse*. Longman.

Nunan, D. 1991. *Language Teaching Methodology*. Prentice Hall.

Richards, J. Platt, J. and Weber, H. 1985. *Longman Dictionary of Applied Linguistics*. Longman.

Rost, M. 1990. *Listening in Language Learning*. Longman.

Rost, M. 1994. *Introducing Listening*. Penguin.

Searle, J. R. 1975. "A Taxonomy of Illocutionary Acts." *Language in Society*, 5, 1-23.

Shannon, C. and Weaver, W. 1949. *The Mathematical Theory of Communication*. University of Illinois Press.

Thomas, J. 1983. *Cross-Cultural Pragmatic Failure*. *Applied Linguistics*, 4(2), 91-109.

鶴田庸子、ポール・ロシター、ティムクルトン。1988。
『英語のソーシャルスキル』大修館書店

Wolfson, N. 1989. *Perspectives Sociolinguistics and TESOL*. Heinle & Heinle Publishers.

APPENDIX

各リスニングテスト中の推量型リスニング問題として分類された11問のスキプトと選択肢を示す。

くく内にはテストの種類とマトリクス上の分類位置を示す。

No. 1 <TOEFL [a、III]>

Man :I can't seem to get the copy machine to

work.

Woman : Have you checked the switch?

Narrator: What does the woman imply?

- (A) The machine works like that other one.
- (B) The man should change machines.
- (C) The machine might not be turned on.
- (D) The man might be changed for the copies.

No. 2 <TOEFL [c、II]>

Woman :I found an expensive-looking ring in the locker room this morning.

Man :If I were you, I'd turn it in to the security office. It's behind the administration building.

Narrator: What does the man suggest the woman do?

- (A) Give him the ring.
- (B) Take the ring to the security office.
- (C) Take the ring to the administration building.
- (D) Put the ring in the locker.

No. 3 <TOEFL [a、III]>

Woman :We're going over to the cafeteria now. Aren't you coming?

Man : I'm waiting for a phone call.

Narrator: What does the man imply?

- (A) He doesn't want to go now.
- (B) He'll meet them at the gate.
- (C) He'll use the phone over there.
- (D) He can't wait much longer.

No. 4 <TOEFL [a、III]>

Woman :Look at this mess! And the guests will be here soon.

Man :Take it easy. I'll make sure the house is spotless.

Narrator:What does the man mean?

- (A) He'll be able to clean the house in time.
- (B) He doesn't have time to take the woman home.
- (C) It should be easy for the guests to find

the house.

- (D) He needs time to relax before the guests arrive.

No. 5 <TOEFL [c、V]>

Woman : Have you found the position yet?

Man : I'm still checking the papers.

Narrator: What can be inferred about the man?

- (A) He's still vacationing.
(B) He likes his position about the paper.
(C) He just started a new job.
(D) He's unemployed.

No. 6 <TOEFL [a、II]>

Man : I'm afraid I'll have to work late again tomorrow night.

Woman : Why don't you just tell them you're not going to?

Narrator: What does the woman suggest the man do?

- (A) Refuse to work after hours.
(B) Arrive a little late.
(C) Get a ride from work.
(D) Go to work early.

No. 7 <TOEFL [c、III]>

Woman : I heard that they're hiring part-time sales at the bookstore.

Man : Great! I could use some extra cash!

Narrator: What is the man probably going to do?

- (A) Sell his textbooks.
(B) Go to the bank.
(C) Apply for the position.
(D) Get some extra help.

No. 8 <TOEFL [c、IV]>

Woman : This is the most fascinating article that I've ever read.

Man : Oh, really? I would have thought that anything about electronics would be tedious.

Narrator: What does the man imply?

- (A) The electronics field doesn't interest him.

(B) The woman should avoid reading about electronics.

(C) The article has technical errors.

(D) The woman should improve her writing.

No. 9 <TOEFL [c、I]>

woman : Did you know that Sarah won the first prize in the photo contest?

Man : So she did enter.

Narrator: What had the man assumed about Sarah?

- (A) She hadn't taken the test yet.
(B) She wouldn't know about the prize.
(C) She wouldn't take a picture of them.
(D) She hadn't participated in the competition.

No. 10 <英語検定1級 [d、IV]>

Man : How was your stay in France last month?

woman : Great, if you like the hospital rooms! For ten days out of my two-week stay I was stuck in one.

Man : Why, what happened?

woman : It's a long story.

Question: Why was the woman unhappy about the trip?

- 1 She had to stay longer than she planned.
2 She often had to visit her injured friend.
3 She could only stay for ten days.
4 She was in the hospital most of the time.

No. 11 <英語検定準1級 [c、III]>

woman : This computer's giving me trouble again! I can't get it to print out from this file.

Man : Let me see. I've had the same problem before. I think I know how to fix it.

Question: What does the man plan to do?

- 1 Buy a new computer.
2 Help the woman with her computer.
3 Print the file using his computer.

4 Advice the woman to give up.

No. 12 <英語検定準1級 [c、II]>

Man : Do you know where ted is?

woman :He's gone to our Atlanta branch and
won't be back till Friday.

Man :Can I reach him there today? It's urgent.

woman :He's in meeting all day. Can't you wait
till he comes back?

Man : I'm afraid not.

woman : O.K. Here's his phone number.

Question: What does the man plan to do?

- 1 Buy a ticket to Atlanta.
- 2 Go with Ted to Atlanta.
- 3 Phone Ted in Atlanta.
- 4 Meet Ted when he comes back from Atlanta.

No. 13 <英語検定2級 [a、II]>

woman :Jack, you should've gone to the concert.
It was absolutely fantastic.

Man :Why didn't you tell me about it, Mary?
I was free.

Question:Why didn't Jack go to the concert?

- 1 He wasn't free.
- 2 He didn't want to go.
- 3 He didn't know about it.
- 4 He doesn't like music.